

ロープ長について

ロープ長については、養殖ロープ延長を証明する書類として、南かやべ漁協の原本謄写による「特定養殖共済契約通知書」(図1)から整理した。

[illegible]

図1 特定養殖共済契約通知書

特定養殖共済契約通知書をもとに、養殖コンブを実施する全漁家の数量は、数値をもとに算出すると、全漁家で 520,508m のロープ長となった。

今回のプロジェクトで算定するCO₂吸収量は、1年養殖（促成）コンブにより生み出されるもので行うが、特定養殖共済通知書に記載されているコンブ養殖のロープ長には、促成養殖コンブのほかに、2年生のほか養殖コンブが含まれている。

2年養殖コンブ等に関して実際の計算から除くため、1年養殖（促成）との分けをする必要があるが、現状では漁業協同組合で状況を把握することが困難なこと、また特定養殖共済通知書では、1年養殖（促成）コンブか2年養殖コンブかの区別がつかないため、漁業協同組合の総代会で報告された業務報告書にある1年養殖（促成）コンブおよび2年養殖コンブの取扱数量を資料として活用し、算出することとした（表1）。

具体的には、漁業協同組合の業務報告書から、1年養殖（促成）コンブと2年養殖コンブ等の数量の割合を算出し、特定養殖共済契約通知書で算出された地区全体のロープ長に割合を乗じて、1年養殖（促成）コンブのロープ長を算出するものとする。

表 1 南かやべ漁業協同組合における養殖コンブ取扱量

	取扱量		比率	
	促成（1年養殖）	2年養殖ほか	促成（1年養殖）	2年養殖ほか
令和5年度業務報告書	2,392t	150t	94.1%	5.9%
令和4年度業務報告書	2,145t	308t	87.4%	12.6%
令和3年度業務報告書	2,172t	392t	84.7%	15.3%
令和2年度業務報告書	2,669t	214t	92.6%	7.4%
令和元年度業務報告書	2,448t	135t	94.8%	5.2%
5年平均	2,365t	240t	90.8%	9.2%

出典：南かやべ漁業協同組合業務報告書

過年度のプロジェクトについては、当該年度の業務報告書を使用するが、今年度に関しては、全量が不明のため過去5カ年平均の値を使用する。

R5カ年平均の漁業協同組合の業務報告書を活用して1年養殖（促成）と2年養殖等の割合を計算する

1年養殖（促成）コンブの数量・・・2,365t

2年養殖コンブほか数量・・・240t

上記数量から、1年養殖および2年養殖の割合を計算し、

1年養殖：2年養殖ほか＝90.8%：9.2%

本プロジェクトのロープ長が、全体で520,508mのため。

ロープ長が、全体で

520,508mのため×90.8%（1年養殖（促成）コンブの割合）

＝472,621m・・・1年養殖コンブの数量として計算

上記の作業により、1年養殖（促成）コンブとそれ以外の2年養殖コンブその他コンブとのロープ長を区別し、1年養殖のロープ長を算定した。

1年養殖（促成）コンブと2年養殖コンブの水揚げする際の違いについて、2年養殖コンブは、1年養殖（促成）コンブと異なり、尻葉を切らずに水揚げし、それを製品化している。

そのため、ロープ1m当たり水揚量で考えた場合、尻葉切り落としをしている1年養殖（促成）コンブよりも、2年養殖コンブのロープ1m当たりの水揚量は多くなるため、取扱量で案分する手法については、1年養殖コンブのロープ長を過大に算出することのない、保守的な評価となっている。